

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-61165

(43)公開日 平成7年(1995)3月7日

(51)Int.Cl. ^o	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 4 2 D	1/00	A		
	15/00	3 5 1	A	
	15/02	5 1 1	C	
G 0 9 F	1/02	E	7323-5G	
	3/02	V	7323-5G	

審査請求 未請求 請求項の数2 F D (全 7 頁)

(21)出願番号 特願平5-232188

(22)出願日 平成5年(1993)8月26日

(71)出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72)発明者 冠 文隆

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

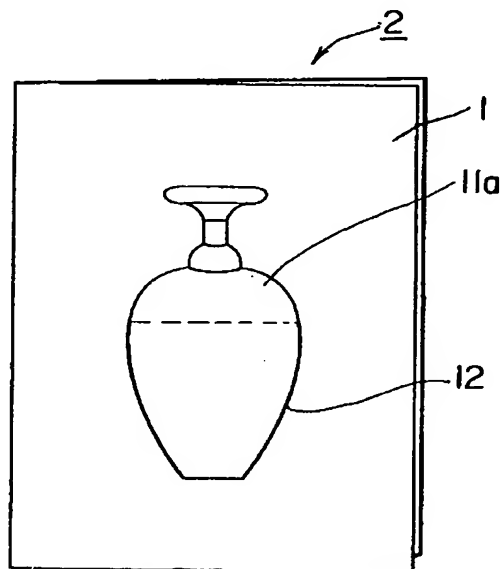
(74)代理人 弁理士 小西 淳美

(54)【発明の名称】 打ち抜き部を有し剥がすと香りの出る印刷物

(57)【要約】

【目的】 香りの出る印刷物で、使用時に芳香成分のマイクロカプセルを手にとって嗅ぐことができる印刷物を提供することを目的とし、それによって、香水、化粧品、花、食品等香り商品の雑誌等によるPRを効果的にするものである。

【構成】 基材1の表面に香水の絵11aを印刷し、裏面に香水の芳香成分を封入したマイクロカプセルを混入した接着剤を塗布して剥離可能な接着剤層を形成し、香水の絵11aの一部に打ち抜き部12を設ける。次に、基材を二つ折りにして端面に塗布した通常の接着剤にて貼り合わせ芳香成分のマイクロカプセルを基材に封入する。この香り入り基材1を雑誌2に綴じ込み香水の広告欄とする。使用時には打ち抜き部12から香り入り接着剤層を剥離すると、香りが発生し、更に香り成分のマイクロカプセルを手にとって香りを嗅ぐ構成とした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 基材の一部に、芳香成分を封入したマイクロカプセルを混入した接着剤にて、剥離可能にした接着剤層を形成した香り入り印刷物であって、印刷表示物の裏面に印刷表示物に相当する芳香成分を封入したマイクロカプセルを混入した接着剤を塗布し、香りの出る印刷表示物の部分に打ち抜き部を設け、この打ち抜き部から剥離することにより香りが発生することを特徴とする香り入り印刷物。

【請求項2】 基材を折り畳んで、開いた時に香り製品が立体的に表示される印刷物において、表示物に相当する芳香成分を封入したマイクロカプセルを混入した接着剤にて、表示物を用紙に接着し、これを剥離することにより、表示物の香りが発生することを特徴とする香り入り印刷物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、接着層から剥離する際に香りが発生し、開いた時に香り製品が立体的に表示される印刷物に関するもので、香り商品を雑誌等で効果的にPRするのに利用できる。

【0002】

【従来の技術】従来、印刷物の用紙に香水等をしみ込ませて、利用者がその印刷物を手にした時に芳香を感じるように、雑誌、チラシ、パンフレット、ダイレクトメール等に利用されている。しかし、この方法では芳香成分が時間の経過と共に揮散してしまうので、保存期間の長いものには利用できなかった。また、芳香成分を封入したマイクロカプセルを混入した糊剤を印刷物等の接着部分に塗布し、この印刷物を二つ折りして接着した後、その接着部分から剥離する際に、香りが発生する印刷物が雑誌、チラシ等に利用されている。雑誌広告等でPR効果を高めるために、開くと立体的に表示される打ち抜きポップアップ等が広告媒体として利用されている。しかし、香りの発生するものではなく、香り商品を効果的にPRするものはなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記の従来技術の欠点を解消するもので、保存状態では揮散による芳香成分の消失はなく、又、同じ紙面に複数の香り成分を封入してもお互いに影響されることがなく、各香り成分を単独で嗅ぐことができる印刷物を提供することにある。しかも、その香り入り印刷物は開いた時に香り製品が立体的に表示され、香り製品を効果的にPRできるようにしたものである。芳香成分をしみ込ませたダイレクトメールの場合、郵送中に揮散して香りが薄くなってしまいう問題があった。逆に、芳香臭が強すぎると、他の郵便物に移ったり、受取人に不快感を与える可能性もある。従来技術では、マイクロカプセルを破壊して香りを嗅ぐ場合、印刷物を鼻の所に持って来て嗅ぐ必要が

あった。そのため、香り成分が薄い場合は、インキの臭や紙の臭を同時に嗅ぐことになり、芳香成分だけの良い香りを楽しむことはできなかった。そのため、立体的に表示できる印刷物と芳香成分のマイクロカプセルを組み合わせて、香水、化粧品、花、食品等の香り商品を効果的にPRするものが望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】基材の一部に、芳香成分を封入したマイクロカプセルを混入した接着剤にて、剥離可能にした接着剤層を形成した香り入り印刷物であって、印刷表示物の裏面に印刷表示物に相当する芳香成分を封入したマイクロカプセルを混入した接着剤を塗布し、香りの出る印刷表示物の部分に打ち抜き部を設け、この打ち抜き部から剥離することにより香りが発生する構成とした。また、基材を折り畳んで、開いた時に香り製品が立体的に表示される印刷物において、表示物に相当する芳香成分を封入したマイクロカプセルを混入した接着剤にて、表示物を用紙に接着し、これを剥離することにより、表示物の香りが発生する構成とした。

【0005】

【作用】本発明によれば、保存状態では揮散による芳香成分の消失はなく、印刷物を開いた時に香り製品が立体的に表示され、接着部を剥離する際に香りが発生し、更に芳香成分の入ったパウダーを手にとって嗅ぐことのできる印刷物を提供するもので、それによって、香水、化粧品、花、食品等の香り製品を雑誌、チラシ、パンフレット等で効果的にPRすることができる。

【0006】

【実施例】以下に実施例に基づいて、図面等を参照しながら本発明を詳細に説明する。従来技術では、マイクロカプセルを破壊して香りを嗅ぐ場合、印刷物を鼻の所に持って来て嗅ぐ必要があった。そのため、香り成分が薄い場合は、インキの臭や紙の臭を同時に嗅ぐことになり、芳香成分だけの良い香りを楽しむことはできなかった。

【0007】本発明では、芳香成分を封入したマイクロカプセルを混入した接着剤で弱接着剤を形成しているため、接着剤を剥離した後でも、大部分のマイクロカプセルは破壊されずに残るので、指先に付けて鼻先で擦って香りを嗅ぐこともでき、芳香成分だけの良い香りを楽しむことができる。また、複数の香り成分を同一紙面に塗布しても、各成分は弱接着剤層として別々に形成されており、香りのマイクロカプセルは独立して存在するので、各香り成分を単独で嗅ぐことができる。従って、複数の香り商品を印刷物でPRするには非常に有効な手段となる。また、立体的に表示できる印刷物と芳香成分のマイクロカプセルを組み合わせているので、香水、化粧品、花、食品等の香り商品を効果的にPRすることができる。

【0008】芳香成分を封入したマイクロカプセルから

なるパウダーを塗布する方法としては、パウダーを接着剤やその他の樹脂に混入してフレキソ印刷、シルクスクリーン印刷、グラビア印刷、オフセット印刷、オフセット輪転印刷等が利用できる。更に、オフセット輪転機と連動させたインラインフィニッシングシステムを使用すれば、1ラインで製造が可能で、コストが安く大量生産ができる。

【0009】芳香成分を封入するマイクロカプセルの材質は芳香成分の種類や接着剤の種類によって異なるが、ゼラチン、ポリビニルアルコール(PVA)、エチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、尿素樹脂、メラミン樹脂等カプセル化できる材質であれば利用できる。接着剤としては澱粉糊、PVA水溶液、酢酸ビニルやエチレン・酢酸ビニル共重合体のエマルジョン、尿素樹脂等の接着剤が利用できる。糊剤にPVAを使用する場合は、芳香成分のカプセル化はゼラチンを使用した方が望ましい。

【0010】香りを強くする場合は尿素樹脂を使用して芳香成分をカプセル化し、カプセルの径を $35\mu\text{m}$ にして使用する。この場合糊剤を混入しなくともカプセル自体に接着性があるため、シリコン油を約10%添加して剥離性をもたせて、ユーザーが剥離し易くする。芳香成分を封入したマイクロカプセルの径は通常 $30\sim 40\mu\text{m}$ のものが使用されるが、商品の内容や得意先の要望によって異なり $5\sim 60\mu\text{m}$ のものが使用可能である。しかし、マイクロカプセルの材質や径、接着剤の種類、剥離性をもたせるシリコン油の添加率等は製品の内容により、ケースバイケースで色々変える必要がある。

【0011】図1及び図2は第1の実施例を示した図で、本発明を雑誌広告に利用した場合である。図1は雑誌の紙面を利用して香水の広告を行う場合で、基材1の表面に香水の絵11aを印刷し、裏面には図2に示すように、香水の芳香成分を封入したマイクロカプセルを混入した接着剤を塗布して接着剤層14の土手を形成し、その内側に芳香成分を封入したマイクロカプセルからなるパウダーを塗布して芳香成分のマイクロカプセル層13を形成する。次に、打ち抜き部12を設け、p、q線より折り曲げて接着剤層15にて接着して香りのパウダーを基材に封入する。この香り入り基材1を雑誌2に綴じ込み香水の広告欄とした。芳香成分を基材に封入する方法として、印刷した基材の裏面に、芳香成分のマイクロカプセルを混入した接着剤にて、香り入り接着剤層だけを形成する場合もある。

【0012】本実施例の広告は、広告の商品と同じ香りのサンプルを紙面を利用して大量に提供することができるので、PR効果が非常に大きい。更に、広告の商品裏面に芳香成分を封入したマイクロカプセルからなるパウダーを塗布しているため、打ち抜き部を利用して接着剤層を剥離した後で、パウダーを指先に付けて鼻先で擦って、芳香成分だけの良い香りを嗅ぐことができるので、

香水瓶から直接嗅ぐのと同じような効果があり、商品のPR効果は絶大となる。

【0013】第2の実施例は複数の商品を雑誌広告に利用する場合で、図3に示す。図3に示すように、基材の表面に香水(A)の絵11a及び香水(B)の絵11bを印刷し、その裏面に、第1の実施例と同様に、香水(A)及び香水(B)の芳香成分を封入したマイクロカプセルを混入した接着剤で、接着剤層の土手を形成し、更に、その土手の内側に香水(A)及び香水(B)の芳香成分を封入したマイクロカプセルからなるパウダーを塗布し、基材を二つ折りにして香りのパウダーを基材に封入する。次に、打ち抜き部12を設けて雑誌に綴じ込み雑誌広告とした。

【0014】上記のように作成した香りの印刷物は、打ち抜き部分を利用して接着剤層を指で剥がし、芳香成分のパウダーを指先に取り鼻先で香水の香りを嗅ぐことができる。この場合、香水(A)及び香水(B)の芳香成分が別々に封入されているので、相互の香りに影響されることなく、香水(A)、香水(B)を単独で嗅ぐことができる。従って、複数の香り商品を同一雑誌又は同一紙面でPRしても、各香り成分がお互いに影響されることなく、各香り商品を単独で嗅ぐことができるので、消費者が自分の好みを明確に判断でき、PR効果は非常に大きなものとなる。

【0015】また、本発明では、打ち抜き部を利用して接着剤層を剥離し、芳香成分のマイクロカプセルを嗅ぐため、広告商品のデザインとして、打ち抜き部は機械的に打ち抜き可能にする必要があり、あまり複雑なものは作業能率の点で好ましくない。図4(a)～(d)に示したような形状は打ち抜き可能であり、香水のデザインとして利用できる。

【0016】第3の実施例は香り商品を消費者に雑誌広告でよりPR効果を高めるために、立体性を付与した場合である。図5(a)は基材の一部を香水瓶の形状に切り抜き、立体効果を持たせて雑誌の紙面に貼り付けた場合で、図5(b)は雑誌に綴じ込まれた状態を示した図である。図6は図5(b)の展開図である。前記雑誌広告を作る場合、基材3は図6に示すようにp、qの折り曲げ線を境にして21、22、23面より構成される。まず、基材3の21面と22面に香水瓶の絵を印刷し、21面の部分を図6に示すように、香水瓶の形状に切り抜く。次に、23面の21面寄りに、第1の実施例と同じ接着剤とマイクロカプセルのパウダーを塗布して芳香成分のマイクロカプセルを混入した接着剤層14と芳香成分のマイクロカプセル層13を形成し、更に22面に通常の接着剤を塗布して図6に示すようなスポットの接着剤部16設ける。

【0017】上記香り入り印刷物を21面と23面をp、q線より折り曲げて、図5(a)に示すように、芳香成分を基材に封入する。更に、22面をp、q線より

折り曲げて、スポットの接着剤部16により接着して図5(b)に示すような形態とする。これを雑誌用紙1に貼り付けた後、雑誌に綴じ込み雑誌広告とする。雑誌購読者は先ず、基材の22面を剥がし、更に香水瓶形状をした21面を剥離すれば、瓶形状に切り抜いた21面は立体的となり、PR効果は増大する。剥離と同時に一部のマイクロカプセルが破壊されて香水の香りがし、又、芳香成分のマイクロカプセルを指で取って香水の香り嗅ぐこともできる。

【0018】図7(a)、(b)は第4の実施例を示して図で、広告商品の絵の裏面のほぼ全面に芳香成分のマイクロカプセルを塗布した場合である。図7(a)に示すように、二つ折りにした基材3の二面に香水の絵を印刷し、その一面の裏面に香水の絵のほぼ全面に芳香成分のマイクロカプセル13を塗布し、更に打ち抜き部12を設ける。次に基材を二つ折りにして重ね合わせてスポットの接着剤部分16を利用して接着する。これを更に雑誌紙面に接着剤にて貼り付けて図7(b)に示すような雑誌広告とする。

【0019】広告雑誌の香水の香りを嗅ぐ場合は、先ず接着剤部分16を剥がし、次に切り抜き部12から剥離して、裏面に塗布してある芳香成分のマイクロカプセル層13からマイクロカプセルを指で取って嗅ぐことができる。また、芳香成分のマイクロカプセルを混入した接着剤にて基材の裏面に弱接着剤層を形成し、これを直接雑誌紙面に貼り付けて図7(b)に示すような形態とすることもできる。この場合は、打ち抜き部から剥離する時にも香りが発生するが、弱接着剤層の芳香成分のマイクロカプセルは大部分は剥離の際も破壊されずに残るので、マイクロカプセルを指先に取り取って香りを嗅ぐこともできる。

【0020】図8は第5の実施例を示して図で、香水のボトルを打ち抜いてポップアップさせる広告に利用した場合である。このポップアップについては、実開昭2-48365に開示したような形状のものが利用できる。図8に示すように、基材に香水のボトルの絵31を印刷し、そのボトル形状の一部に打ち抜き部12を設け、次に折り曲げのためのミシン目32と糊付け部33を施し、別の基材に貼り付け、基材を開いた時にボトルがポップアップするような形状とする。更に、図8に示すように、基材の端の部分の裏面に芳香成分のマイクロカプセルを混入した接着剤層14と芳香成分のマイクロカプセル層13を形成して、これを折り畳んで雑誌紙面に貼り付けて広告紙面とする。また、上記香り成分を封入したポップアップ形状のものをチラシやパンフレットに利用することもできる。

【0021】利用者は印刷物の広告紙面を開くと香水のボトルがポップアップして、眼前に現れるとので、接着剤層14を剥離すると芳香成分のマイクロカプセルの一部が破壊されて香水の香りがする。更に、芳香成分のマ

イクロカプセルのパウダーを指先に取り取って香水の香りを嗅ぐこともできる。この場合、広告紙面が立体的となり商品をよりリアルに表現できるので、香り商品のPRには非常に効果的である。

【0022】第6の実施例は、第5の実施例とは別の方法で香水のボトルをポップアップさせる広告に利用した場合である。図9(b)に示すように、印刷をしてボトルの形状に切り抜いた基材35に糊代部36を施して、雑誌紙面に図9(a)のように貼り付け、これを二つ折りにして、広告品とする。芳香成分のマイクロカプセルは接着剤として雑誌用紙の端面に塗布し、雑誌紙面に封入する。雑誌を開いて時に、香水のボトルがポップアップして眼前に現れるが、その時端面に塗布した接着剤層を剥離することにより、香水の香りを嗅ぐことができる。また、接着剤層に残存する芳香成分のマイクロカプセルを指先に取り取って香りを嗅ぐこともできる。

【0023】第7の実施例は、図10に示すように、雑誌の2頁にわたって広告紙面とする場合で、花模様の裏面全面に芳香成分のマイクロカプセルを混入した接着剤を塗布した場合である。基材の表面に花の絵37を印刷し、次にこの裏面に芳香成分のマイクロカプセルを混入した接着剤を塗布して接着剤層を形成し、基材を二つ折りにして接着剤層15にて貼り合わせて芳香成分を基材に封入する。個の場合、芳香成分のマイクロカプセルを混入した接着剤層部分も接着される。図10に示すように絵に沿って打ち抜き部12を設け、これを雑誌に綴じ込み広告紙面とする。香りを嗅ぐ場合は、花の絵の打ち抜き部を剥離することにより、花の香りが発生するので、打ち抜き部を徐々に剥離することにより、花の香りを長時間楽しむことができる。

【0024】

【本発明の効果】本発明によれば、保存状態では揮散による芳香成分の消失はなく、印刷物を開いた時に香り製品が立体的に表示され、接着部を剥離する際に香りが発生し、更に芳香成分の入ったパウダーを手に取り取って嗅ぐことのできる印刷物を提供するもので、それによって、香水、化粧品、花、食品等の香り製品を雑誌、チラシ、パンフレット等で効果的にPRすることができる。また、芳香成分はマイクロカプセルはパウダー状に印刷物に封入されているので、パウダーを指先に取り取って、鼻先でマイクロカプセルを破壊して、香り成分だけのよい香り嗅ぐことができるので、香水瓶から直接嗅ぐのと同じような効果があり、PR効果は非常に大きい。更に、芳香成分のマイクロカプセルは接着剤等に混入してパターン状に印刷物に封入できるため、複数の香り成分を同じ紙面又は雑誌に入れても、お互いに影響されることなく、香り成分を単独で嗅ぐことができるので、複数の商品を同じ雑誌で同時にPRすることができ、経済的にもメリットが大きい。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1の実施例による香りの出る印刷物を雑誌に綴じ込んだ図。

【図2】第1の実施例の香り入り印刷物の展開図。

【図3】第2の実施例による香り入り印刷物を雑誌広告にした図。

【図4】(a)～(d) 第2の実施例による打ち抜き形状を示した図。

【図5】(a) 第3の実施例による香り入り印刷物を雑誌広告にする時の説明図。

(b) 第3の実施例による香り入り印刷物を雑誌広告にした図。

【図6】第3の実施例による香り入り印刷物の展開図。

【図7】(a) 第4の実施例による香り入り印刷物を雑誌広告にする時の説明図。

(b) 第4の実施例による香り入り印刷物を雑誌広告にした図。

【図8】第5の実施例による香り入り印刷物をポップアップ広告に利用した図。

【図9】(a) 第6の実施例による香り入り印刷物をポップアップ広告とした図。

(b) 第6の実施例による香り入り印刷物の展開図。

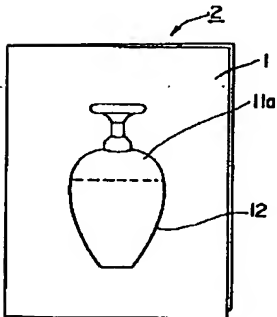
【図10】第7の実施例による香り入り印刷物を雑誌に

綴じ込んだ図。

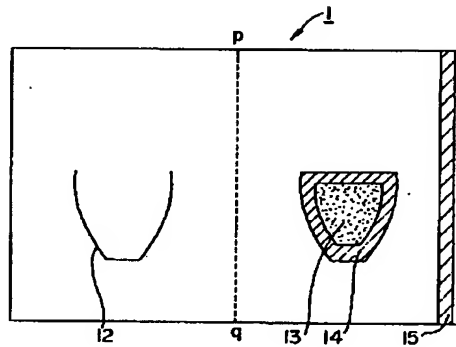
【符号の説明】

- 1 雑誌用紙
- 2 雑誌
- 3 広告用基材
- 11a 香水(A)の絵
- 11b 香水(B)の絵
- 12 打ち抜き部
- 13 芳香成分のマイクロカプセル層
- 14 芳香成分のマイクロカプセルを混入した接着剤層
- 15 接着剤層(通常の糊付け層)
- 16 スポットの接着剤部(通常の糊付け層)
- 21 広告用基材を香水瓶の形状に切り抜いた部分
- 22 香水瓶の形状に切り抜いた部分を被覆する部分
- 23 芳香成分及び接着剤を塗布する部分
- 31 ボトル形状の打ち抜き部
- 32 ミシン目
- 33 糊付け部
- 35 ポップアップするボトル形状の切り抜き部
- 36 糊代部
- 20 36 糊代部
- p、q 折り曲げ線

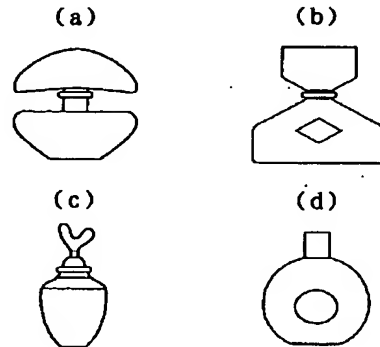
【図1】



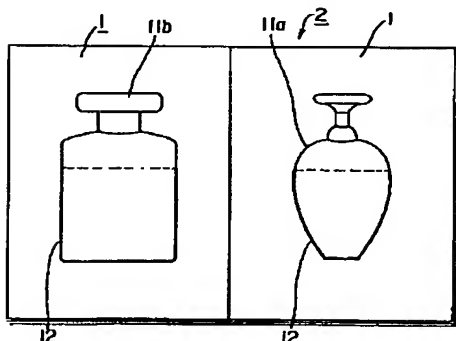
【図2】



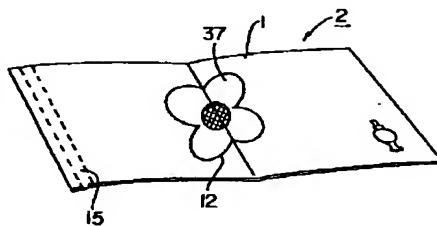
【図4】



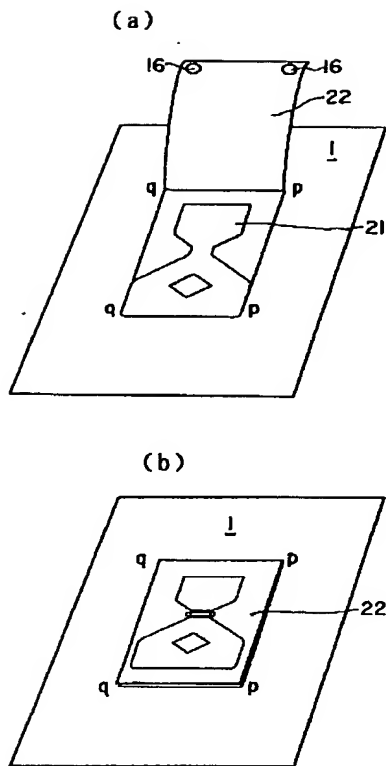
【図3】



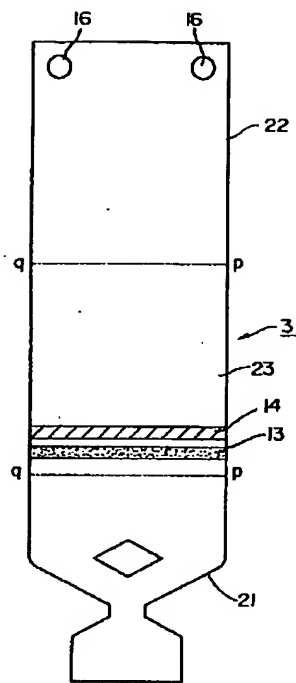
【図10】



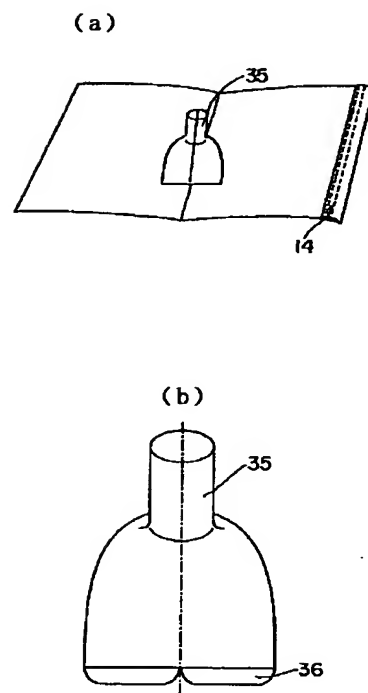
【図5】



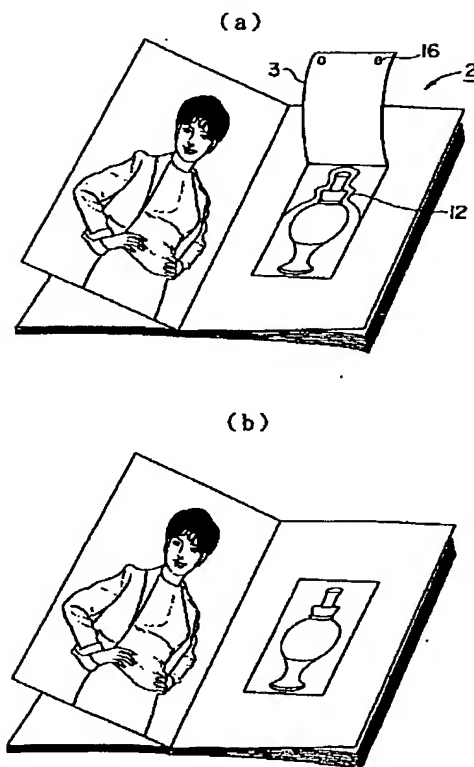
【図6】



【図9】



【図7】



【図8】

